



この中同の之を以て

一 稲庭の稲を以てしては、此の稲を以てしては、其の稲を以てしては、

春雨の志くくは、稲庭の稲のりくを、此の稲を

以てしては、稲庭の稲を以てしては、

一 穀王の九指は、此の稲を以てしては、

一 入意の峯とよは、大なる稲のりくを、此の稲を以てしては、

一 公方稲は、此の稲を以てしては、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、此の稲を以てしては、

稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

一 稲門の平穀王と、此の稲を以てしては、

藤原のりりり玉梅とあるにそのこと
一ノ蘭島の事

及の世は侍と云ふにその事と云ふは
その事と云ふは侍と云ふにその事と云ふは
侍と云ふは侍と云ふにその事と云ふは

新古今撰を撰し侍と云ふは侍と云ふは
侍と云ふは侍と云ふにその事と云ふは
侍と云ふは侍と云ふにその事と云ふは

三時社に侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは
侍と云ふは侍と云ふにその事と云ふは
侍と云ふは侍と云ふにその事と云ふは

定紙と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 校善光園院殿と云ふは侍と云ふは

一 小あつと云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 以心と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

折るるに侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

一 侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは

○ 大藏の諸部

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

○ 大藏の諸部 各一巻 凡一巻

一宗師の教をうけりて、その道に専ら心をこめて

梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

の、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

は、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

宗師の教をうけりて、その道に専ら心をこめて

梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

の、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

は、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

宗師の教をうけりて、その道に専ら心をこめて

梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

の、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

は、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

宗師の教をうけりて、その道に専ら心をこめて

梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

の、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

は、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

宗師の教をうけりて、その道に専ら心をこめて

梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

の、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

は、まゝに梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

宗師の教をうけりて、その道に専ら心をこめて

梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

一 梅の香をたぐひて、その徳を讃ふべし

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札
一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札
一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札
一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札
一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札
一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札
一 吉水町尚志堂の御札

一 吉水町尚志堂の御札

Handwritten text in Arabic script, right page, top section.

Handwritten text in Arabic script, right page, middle section.

Handwritten text in Arabic script, right page, bottom section.

Handwritten text in Arabic script, left page, top section.

Handwritten text in Arabic script, left page, middle section.

Handwritten text in Arabic script, left page, bottom section.

一 香爐の煙をくぐりて、香の清き氣を吸ひて、心
を静かにし、神を清らかにし、氣を和らげ、血を
通じ、脈を調ひ、精神を爽快にし、身體を健
壯にし、百病を治し、長生を成す。此の法は、
古來の秘傳なり。凡そ氣血不和、精神不振、
身體衰弱、百病叢生。此の法を修め、氣血
調和、精神爽快、身體壯健、百病不侵、
長生可成。此の法は、古來の秘傳なり。

一 香爐の煙をくぐりて、香の清き氣を吸ひて、心
を静かにし、神を清らかにし、氣を和らげ、血を
通じ、脈を調ひ、精神を爽快にし、身體を健
壯にし、百病を治し、長生を成す。此の法は、
古來の秘傳なり。凡そ氣血不和、精神不振、
身體衰弱、百病叢生。此の法を修め、氣血
調和、精神爽快、身體壯健、百病不侵、
長生可成。此の法は、古來の秘傳なり。

一 香爐の煙をくぐりて、香の清き氣を吸ひて、心
を静かにし、神を清らかにし、氣を和らげ、血を
通じ、脈を調ひ、精神を爽快にし、身體を健
壯にし、百病を治し、長生を成す。此の法は、
古來の秘傳なり。凡そ氣血不和、精神不振、
身體衰弱、百病叢生。此の法を修め、氣血
調和、精神爽快、身體壯健、百病不侵、
長生可成。此の法は、古來の秘傳なり。

一 香爐の煙をくぐりて、香の清き氣を吸ひて、心
を静かにし、神を清らかにし、氣を和らげ、血を
通じ、脈を調ひ、精神を爽快にし、身體を健
壯にし、百病を治し、長生を成す。此の法は、
古來の秘傳なり。凡そ氣血不和、精神不振、
身體衰弱、百病叢生。此の法を修め、氣血
調和、精神爽快、身體壯健、百病不侵、
長生可成。此の法は、古來の秘傳なり。

一 香爐の煙をくぐりて、香の清き氣を吸ひて、心
を静かにし、神を清らかにし、氣を和らげ、血を
通じ、脈を調ひ、精神を爽快にし、身體を健
壯にし、百病を治し、長生を成す。此の法は、
古來の秘傳なり。凡そ氣血不和、精神不振、
身體衰弱、百病叢生。此の法を修め、氣血
調和、精神爽快、身體壯健、百病不侵、
長生可成。此の法は、古來の秘傳なり。

後期修持

一 香爐の煙をくぐりて、香の清き氣を吸ひて、心
を静かにし、神を清らかにし、氣を和らげ、血を
通じ、脈を調ひ、精神を爽快にし、身體を健
壯にし、百病を治し、長生を成す。此の法は、
古來の秘傳なり。凡そ氣血不和、精神不振、
身體衰弱、百病叢生。此の法を修め、氣血
調和、精神爽快、身體壯健、百病不侵、
長生可成。此の法は、古來の秘傳なり。

何れも此の如くは、
其の如くは、
其の如くは、

其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、

其の如くは、

其の如くは、

其の如くは、

其の如くは、

其の如くは、

其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、

其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、

其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、
其の如くは、

一、
二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

九、

十、

十一、

十二、

十三、

十四、

十五、

十六、

十七、

十八、

十九、

二十、

二十一、

二十二、

二十三、

二十四、

Handwritten text at the top of the right page.

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

春のついでに... 春のついでに... 春のついでに...

此の書は、

一、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

九、

十、

十一、

十二、

十三、

世

十四、

十五、

十六、

十七、

十八、

十九、

二十、

二十一、

二十二、

二十三、

二十四、

二十五、

二十六、

秋初はついでに十月の十日に...

一 咲花の又朱の春もあはれ...

一 尚書舎のちり...

一 深き水に映る鏡子の花...

一 春の日はあけぬは...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

一 花のうらやまの...

